

会 報

栃木県中学校長会

発行日 昭和48年12月1日

『進むみち』

会長 戸田博巨

会長に選任されて半歳余り、会の責任者として行動している中で、感じさせられたり、感じたり、考えたりすることが多い。

1 「たより」にされている

会長就任以来今日までに、県、県教委、市教委各種団体などから、委員、理事、評議員などの名称で、役員の依頼を受けたのが約三十五種類ぐらゐ。その会の運営や事業の審議等への会合に参加すること六十余回。これらはすべて、何らかの点で児童、生徒に関係のあること、教職員に関係のあること、学校教育や社会教育に関係のあることなどではあるが、事をなすのに、校長会が重要なメンバーとして加えられるということの事実は「たより」にされているということだろ。

この現実「校長会」への信頼や願いが非常に強いということのあらわれであるとも考えられる。

2 外部からの批判は鋭い

いろいろな会合や会議の席上、教育関係者以外の人々からの教育に対する批判の言葉として次のようなことをよく耳にする。

「教師の教育に立ち向う真剣さや打ち込み方が、なまぬい」

「今の学校では……個人事業なら倒産だが、親方日の丸だから……」

「教育者は教育者自身で、自分を卑下し

ているようにみられる。今少し誇りと自信を持つべきだ」

「教育行政当局も、「教育は人である」という考えの実現に欠けるところがあるように見られるがどうか」

「栃木県の教育正常化は、各学校、学校と教委にトランプが無いというだけで、可もなし不可もなし沈滞しきっている現状とみるがどうか」

「校長のなかには子供に目の向いていない者が多いようだがどうか」

3 栃木代表は「ほらふき」

関東ブロックや全日中の理事会等に出席しているが、そこの話は暗く、教育以前と思われるようなことが多い。

他県の校長は、非常な苦勞をしているよである。だから栃木県の状況をしても半分ぐらゐしか信用しないようであるし、あの理事は「ほらふき」と見ているような人もいるようである。

紙面の都合で以上のことしか書けませんでしたしたが私は1にのべた信頼と願いを、校長、一人一人が、また校長会として協力し合って一そう強めるよう努力し、教育関係者以外の批判を感謝の言葉に置きかえることができるように、教育の現場を生きたまゝとしたものとして推進すること、ほらを真実として全国に信用させるよう努めることなども本県校長会の進む「みち」であるように思う次第である。

関プロ神奈川大会

全体会議長に塩入校長

県校長会理事會・協議員會開催

県校長会の本年度第三回理事会並びに第二回協議員會を、去る十月二日及び十月十六日に、宇都宮市一条中においてそれら開催、昭和四十九年度関プロ神奈川大会の分担に関し、全体會議長に塩入安三郎校長（鹿沼西中）を定めるなど各種議案を審議した。主な内容は次のとおり。

1 報告事項

- (1) 義務教育振興協議會の件、大会は十二月十二日開催。その陳情書内容は、社会体育施設の増設、昇給期間の短縮、個所の増設、県学校教職員の増員等十三項目
- (2) 関プロ中学校理事会の件
神奈川大会は昭四九、六、一九、六、二一の三日間、藤沢市において開催。
- (3) また関プロの分担金は年額三〇〇円より五〇〇円に増額の見込みはせず。
- (4) 皆川小火災見舞の件、中学校の総額は一、六一三、五二六円。
- (5) 全日中役員研究会の件、八月十七、十八、十九の三日間国立教育會館で開催、文部省との懇談、講演、情報交換の内容の報告。

2 協議事項

- (1) 義務教育振興大会の件 意見交換。
- (2) モラルの高揚を考へるべきだ。線香花火的にならないよう、分科會をもつてはどうか。行政機關の代表者の出席を。参加者は校長、教頭、P・T・A。出席は本年度は出張扱いが可能 など。

(2) 教育會館移転建設の件

- 1 土地は一、二〇〇坪無償借用、建設費四億四千万、事務棟、ホール棟を別とするか、事務棟にホール棟を含むかは検討中。教育會員のみでなく、全教員の提出を。名称は栃木県総合教育會館 など。
- 2 昭和四十九年度関プロ神奈川大会分担の件
- 3 協議員は六名、次回協議員會で決定
- 4 全体會議長に鹿沼西中塩入安三郎校長、全体會提案者河内上河内中増淵益三校長、また本県担当第七分科會の司會者は芳賀、山前中横田正一校長、同提案者は宇、旭中篠原俊雄校長とそれら決定。
- 5 その他、人材確保法案通過促進のための葉書陳情の活発化、海外視察者餞別の件確認 など。

第四回理事会は塩原で

本年度第四回理事会は「理事研修會」ということで、十一月三十日（金）午後一時より塩原町こめや旅館で開催される。議題は次のとおり

- 1 全日中京大大会について
 - 2 第二十六回関プロ神奈川大会について
 - 3 義務教育振興大会について
 - 4 各地区校長會の活動について
- なお第三回協議員會は来年一月十八、十九日の二日間、那須において開催の予定。

地区校長会の動き

◇宇都宮
 ・昭四八、四、一、一条中において第一回校長会を開催、新任校長紹介のあと、各種団体の役割分担、関プロ千葉大会、全日中京大大会などの参加者の決定、新任式のやり方などを協議。
 ・昭四八、四、一七、一条中において第二回校長会、県校長会総会の役割分担の件、就学旅行の運営の件、関プロ大会の主題や内容の検討など話しあった。
 ・昭四八、六、三〇、陽西中で開催、夏休み中の職員、生徒の召集や勤務の件、林間学校実施に伴う申しあわせなどを協議。
 ・昭四八、七、四、第一回中高連絡協議会を宇工校において開催。意見及び情報交換を行なうとともに指導の協力体制を協議。
 ・昭四八、九、一〇、星が丘中において校長会。三悪道放設立総会の件、教育法案連絡協議会の件、第二学期以降の学校行事、運営等の件などを審議。
◇河内
 河内郡中学校長会は極めて小規模なもので、小中合同で会議をもちその後小中の部会により会の運営を図っていることが多い。現在までの活動と今後の予定は次のようである。
 四月十二日 小中学校長会組織づくり
 中学校長会組織づくり、県中学校長会理事会の伝達。
 四月十九日 県中理事会の伝達および歓迎会(小中合同)

六月九日 県中理事会の伝達
 研修会(小中合同) 学校経営上の諸問題講師河内教育事務所長
 七月二日 河内音楽祭の実施計画
 研修会真岡市工業団地および一万入ブール視察。
 九月十四日 教育会館建設問題につき協議、諸連絡。
 十一月十三日 研修会(小中合同)
 学校管理運営上の諸問題
 講師 河内教育事務所長・義務教育課管理主任
 十二月八日 補助金、負担金等各町村に要望書提出。年間の反省会。
 二月 諸連絡。
 三月 本年度の反省と次年度の計画
◇上野
 本地区校長会は、会員の資質向上のため、研修をパッチリやろう、けれども、研修の効率を高めるには、親睦もミッチリやろう、これが、校長会運営の基本姿勢であります。
 昭和四十八年度の活動状況は、次の通りであります。
 一、全日中学校長会委員としての意識の高揚。
 五月二十三日 全日中総会に全員参加し、会員意識の高揚と見聞を広める。
 七月十二日より、泊二日にわたり、日光中宮祠において、校長としての学校の管理運営及び生徒指導の取り組み方を研修するとともに親睦を深める。
 三、全日中京大大会の参加。
 十月二十九日と三十一日の間、京大大会の参加並びに三重県丸山中の視察及び京都市内文化財などの視察研修をグループで深める。

◇芳賀
 四月十三日の総会において、次のような計画を立て、それに従って実施している。

月日	会場	研究事項
5・18	久下田中	職員組織と職員指導
7・5	益子中	教育機器の導入と活用
9・13	須藤中	必須クラブの問題点
11・6	真岡中	第三体育や法規研究
1月	真岡中	県外教育事情調査

 開催は奇数月で年四回、会場は順回りを原則とし、研究内容は「教育課程実施に伴う条件整備」を柱としている。
 本年の県外事情調査は、一月の二十五、六日に一泊二日、豊橋で学校視察をし西浦温泉で親睦はかり、猿島などを見学する計画が進められており、会員十六名全員参加の見込みである。
◇小山
 一、組織構成 会員八名、正副会長、庶務会計、各一名をおき、会員は県中専門部にそれぞれ所属し、役割を分担して活動している。
 二、定例会 小中合同で毎日一回、半日(午後)開催し、市教委の指示連絡事項、市校長会関係の教育活動について連絡協議している。中学校部会として必要事項については別途打合せ協議検討している。
 三、研修活動の概要
 一、研究主題「協力指導体制の推進」
 具体目標「学年会で特別活動を深め、推進するに当りどのように配慮努力しているか」
 方 法 5、7、9、10、11、12の各月午後一時三十分より四時三十分まで、各自資料プリント持参し討議研修

する。十二月末まとめ研修記録として市村町で発行する。
 他に小中合同の県外視察研修を実施している。
 四、その他 警察、職業安定所、体協など機関団体の諸行事にも協力して活動を推進している。
◇下都賀
 研修テーマ「学校経営の現代化をはかるためにはどうしたらよいか」に基づき毎月一回各中学校を輪番に会場として定例研修会を実施している。この会は原則として各町の町長さん教育長さんの講話当該校長の学校経営と地区内の見学を日程に織り込むようにしている。
 五月都賀中で中田教育長講話を皮きりに、六月都賀中藍田教育長講話、大場邸見学、七月石橋中出教育長講話、日産工場見学、九月国分寺中大島教育長講話、十月小野寺中森田町長恩田教育長講話、村神社大慈寺、吉野工業所見学、森田町長の講話を聴かせたいとする町作り論、文化の花を咲かせたいとする町作り論、自分を日と見主義者と断じ、対立、矛盾が進歩を生み、それをいかに調和させるか人間の価値があるとす人生哲学は全会員に深い感銘を与えた。今後藤岡、大平、岩舟、壬生を会場に続ける予定である。なお十月には前会長も招待して県外優良校調査も実施した。
◇塩谷
 「生徒ひとりひとりの豊かな人間性を育てるための教育を目指して」という主題により、次のようなサブテーマを設定して研修を続けている。
 1 豊かな心を育てるための配慮
 2 生徒どうしの連帯感を培うための配慮

3 自から学ぶ態度の育成の配慮
 4 進路指導の実践と問題点
 5 師弟間の暖かい人間関係を育くむ配慮
 研究の日程は、午前中はテーマによる研究協議、午後は、伝達、諸連絡、情報交換を原則として行ない、年間六回の会議におさえている。
 今後の活動として、県外視察、先輩との懇談、特に進路指導の適正をはかるために、高校入試の在り方や、定員定数の問題から起る無免許担任等についても研究をすすめていくようにしたい。
◇那須
 六・三 一 年間事業計画
 二 研修テーマの検討ならびに研究
 九六七 一 新教育課程完全実施に伴う諸問題をどうすればよいか。
 二 那須の風土に合った中学校の経営をどのようにしたらよいか。
 三・六 一 創造的で効率の高い教育実践。
 二 学校経営の効率化
 一 教育内容の充実
 二 生活規律を中心としての生徒指導の具体策
 二・五 調和ある学校運営についての反省ならびに新年度構想
 本地区は、小中学校長合同の校長会をもっての分散会等ももち研修と情報交換につとめている。
 外に中高連絡協議会が、研究所主催で年二回もたれ、中高の連絡協議を深めている。
◇佐野
 一、中学校長会

四月六日新陣容決定、毎月一回小中合同の校長会を開き、後に小中別に分れ協議をしいる。
 二、研修会
 毎月一回安佐小中学校長会議を午前中、午後是小中別に別れて研修をしている。テーマ「学校経営の現代化をはかるにはどうすればよいか」望ましい学校運営をはかるため、教員の組織、分担、指導と管理の体制等について学校経営上の問題点と改善の方向を明らかにする。
 三、佐高商業科分離に伴う佐高学級増について、地元PTA協議会の県教委に対する陳情につき協力する。
 四、十二月十日(月)馬頭中を訪問し、学校経営、とくに特活クラブ活動について御教示を乞う予定。
◇足利
 一、研修関係 研修は十二人の校長を三簡班に分け、全体研修のほかには個別研修を行なってきた。中心テーマは「教育課程外の教育活動の指導と管理」および「教育組織と施設設備」現在ほまための段階にある。
 なお、十二月一日には安足校長研修会を足利で開催する予定で準備中である。
 二、県外視察 今年九月六、七、八の三日間、岐阜県益田郡萩原町立北中学校(文部省指定の生徒指導推進校)を中心に視察、高山市の合掌造りや明治村の見学をした。
 三、その他 「学校現代化に伴う教育予算の増額」を目ざして、各校からアンケートをとり、昭和四十九年度予算の増額による学校建築の改善、無人化に伴う施設設備の整備、教育機器の充実、学校交際費の新設、図書館事務職員の全校配置等を市に要望した。

専門部活動
◇調査部
 一、調査部会 宇・一条中 昭四八・六・五 宇・一条中 昭四八・一〇・一六
 二、活動状況
 全日中調査部の調査に基づき、本県教育の実態を明らかにするとともに、県中本部ならびに各部の活動に対し資料を提供している。
 三、調査内容
 昭四八年度教育費(県負担) 公立中学校学級数別教員定数。高校入試制度。教員旅費。教員平均給。初任給。宿日直制度廃止。中学校学校数・学級数・生徒数・教職員増減。教員の資質向上。週担当時数・担当教科・免許外教科担当。教員および校長の待遇。教育課程(週時数・単位時間・クラブ活動・部活動への予算・補助)。へき地教育。校長年令および選抜制度。教員需給状況。学校給食。特殊学級。学校施設(校舎・体育館・プール)
◇研修部
 昭四八、四、二四 於 一条中。
 研修部活動組織決定。本会の重点目標一、会員の研修活動推進達成を目ざし、(1)教育課程完全実施に伴う諸問題(県北、芳賀) (2)校長職のあり方(県中) (3)学校経営の近代化(県南)及び関プロ千葉大会の研究テーマ「人間尊重の理念にたつ中学校教育の組織および内容の問題点とその改善」を中心に課題とし、各地区はそれぞれの九分科会のテーマを分担して、研究活動を進めることと

五月、十二月
 各地区校長会は、それぞれの組織の中で、自主的に組織的計画的に調査研究、視察等を実施。
 六・一三(一四) 関プロ千葉大会。
 会員多数参加。特に第六分科会には、司会天木義男校長、提案者小竹正美校長の活躍があった。
 一〇・一六 於 一条中。研修部会(予定)
 研究テーマの分担確認と各地区研究活動情報交換。本年度版研究集録刊行の企画。
 一一・二八 於 陽北中。研修部会。研修部の運営並びに研究集録刊行について協議。
◇編集部
 編集部の年間事業は、「校長会会報」の発行と、全日中機関誌「中学校」の編集力が主なるものである。このうち会報は、年度当初の総会資料の形で発行するだけであった。予算上の都合で、これ以上は困難であった。しかし、「情報化時代である」ということで、今年より更にもう一回の発行を許していただいた。少しでも多く、情報提供や交流ができるなら、それだけ校長会の発展にもなるかと考えている。願わくは、もう一度出し、編集委員の活動も活発にしたいという念願である。
 全日中機関誌の編集では月一回の委員会に出席し、本県のP・Rにも努めている。すでに栃木西中の臼井弘典先生、宇都宮星が丘中の鈴木信先生の玉稿が十、十一月号にそれぞれ掲載された。今後あらゆる機会に、県下各地の校長先生方

に健筆を振るっていただきたいと願っている。そして、栃木県中学校長会の活動ぶりを、全国に報道したいと思う。

職員対策部 鈴木 信

- 一、本年度の役員
部長鈴木 信(宇・星が丘中) 副部長藤掛良一(安・田沼西中) 大貫順作(塩・矢板中) 部員十三名
- 二、年間計画 部員開催六回
給与、人事対策(中央、栃管協と連絡提携を密にしながら)
- 三、活動内容

- 1、人確法成立のため中央部の運動に参加、推進する。
- 2、退職年令の状況を近県のそれと比較検討する。
- 3、教員配当基準(養護、事務職員、生徒指導主事を含む)の研究
- 4、県内市町村養負担職員の状況調査(事務見習、事務員、司書見習等)
- 5、県担教員を増員するための資料作成
- 6、校長の給与是正(退職付の優遇とも考慮して)のための資料作成
- 7、旅費、図書費の高校との格差是正について着々活動をすすめている。

修学旅行部

- 一、六月第一回役員会 部会の年間予定と関東地区修学旅行委員会問題を検討するとともに、本年および来年度修学旅行について前部長を訪問、関係機関との連絡などで話し合いをする。
- 二、七月修学旅行部会総会、諸問題等について検討する。
- 三、関東地区修学旅行委員会に出席、出席ごとに本県の修学旅行について意見をのべる。
- 四、来年度の修学旅行について本年度あ

った問題から反省して、国鉄本社に対して要望と陳情をする。(四度東京に行く)

五、十月第二回役員会、来年度の修学旅行について、時間および座席等について検討。

六、役員会の要望により、国鉄本社ならびに関東地区修学旅行委員会に再度、陳情と要望をする。(結果については、後日部会を開催して説明する予定)

福利厚生部

昭和四十八年六月五日に専門部会を開催して部長・副部長を選任し、年間事業計画を審議。事業内容は次の通り。

- 一、生徒手帳(栃木県版)の編集とあわせん。
- 二、「新しい交通安全」(栃木県版)の編集とあわせん。
- 三、中教研道徳部会と提携して、「新しい道」の改訂とあわせん。
- 事業経過
- 一、六月十七・十八の両日金港堂より社長等を招き、生徒手帳の編集を行ない、十月二十五日校正を終了。
- 二、十一月十九日、交通安全の編集会議を開催する予定。
- 三、年末あっせんを行う予定。

進路対策部

昨年度、県立高校入試についてのアンケート(調査)をしたが、これが結果を検討し、県教委にも中学校現場からの要望として資料を提供、昨年度の入試方法についていくつかの改善点が明らかになった。

今年度においても、昨年に引き続き入試方法の改善意見を調査することになり、十月十六日に会を開き、調査項目について検査を加えた。特に調査項目内容

とは別に公立高校における「推薦入学」のは是非論が相当活発にされた。結論的には、意向はよいが、方法的に問題点もあり、慎重にまとめるべきで、時期尚早ということであった。

入試における今後の調査では、教育行政の面での担当課である高校教育課ともじゅうぶんな連絡のうえ実施することとしたが、入試の教科数、調査書の内容・特に特別活動の記録方法などが重点と予想される。

事務局だより

◎高等学校入学者選抜試験に伴う諸用紙の共同印刷について

例年のとおり県教委より提出用として、配布される部数の外に、下書用控用として必要な分や、県教委より配布されない用紙について、共同印刷を事務局で取り扱うことになりました。

◎「サツキプロセッサ」に依頼しましたので、近く同社より発注表が各学校に送付されますから必要数を申込下さい。

なお、一月二十日頃までに、発注を受けた用紙は地区毎に一括して、地区会長校にお届けしますから、代金引替で受領して下さい。

昭和四十九年度関東甲信越地区中学校教育研究協議会について

左記により開催されますので、今からじゅうぶんな研究を進めておいて下さい。なお、昭和五十年度は本県において同大会が開催される予定です。

期 日 昭和四十九年六月十九日
場 神奈川県 藤沢市
参加者数 本県六十名
全体協議題 「豊かな人間の育成に視点をのせた中学校教育の現状とその改善試案の策定」中学校教育の役割と現行学制の再検討

◎栃木県小中学校長慶弔会運営について
会員の海外出張餞別金、表彰祝、傷病見舞、その他規定に基づき執行する事項が生じた場合は、直ちに事務局に連絡し、請求書を提出して下さいようお願いいたします。

◎明年度より関プロ校長会分担金が五百円になります。(本年度三百円)

あとがき

従来、会報は年一回、年度当初の総会の折発行されていたのですが、この情報化時代にそれではさびしかりとういうこと、もっと積極的に広報・機関誌としての意義を果たさせようというような意見が編集部員より出てき、予算が許されればというところで検討の結果、会長、理事の方々のご配慮を得て、ここに本年度第二回目をお届けすることになりました。

今回は、理事会、協議員会、また専門部活動の状況などを取りあげました。地区校長会の動向については、原稿をいただけなかつたところもありまして、従って誌上に御紹介できなかつたこと、お許しを願いたいと存じます。

今年、編集部員さんたちが大変意欲的で、できれば年三回ぐらいの発行をしてみたいと、張り切っています。今後の御指導を、心からお願ひ申し上げます。(河又記)